

編集後記

あたらしき年のはじめは楽しかり

わがたましひを養ひゆかむ

斎藤 茂吉

新しい年を迎え、今年もまた新しい「日本文学紀要」をお届けする運びとなった。本号では、日本文学、日本語学、日本語教育、中国文学の各領域にわたり、十四篇の論考を収めることができた。ご寄稿くださった先生方に深く感謝申し上げたい。

昭和女子大学は、少人数制教育で、カリキュラムが充実している点に特色があるが、それは専任教員の数が多く、専門領域の層が厚いからこそ可能な方法であると言えよう。われわれは、教育面におけると同様に、研究面においても多くの多彩な研究者に恵まれた環境にあり、本号に収載された論考の領域の広さにもそれは表れている。日本語や日本文学にともに関わりつつ、それぞれが個別の専門領域を持つという、共通性と個別性。平常は各々さまざまな仕事に追われ、研究についてゆっくりと談論するような機会はなかなか持ちにくい。共通性と個別性をもった多彩な研究者が身近に存在していることで、情報交換や教示はもとより、切磋琢磨する鏡として、日々多くの恩恵を得ているように思われる。本年もまた、それぞれの研究において実りゆたかな年であることを祈念申し上げるとともに、本号の刊行にあたりご支援とご協力を賜った、『学苑』編集室の方々に心より感謝申し上げます。

鳥のこゑ今朝はうつくし論文の

しらべすみぬる窓の日の影

金子 元臣

(Y・K)

編集委員

岸田 依子
茅場 康雄
久下 裕利

学苑 七百八十三号

定価 八四〇円(本体八〇〇円)

購読料 一カ年分 一〇〇八〇円

(本体 九六〇〇円)

平成十七年十二月二十日 印刷

平成十八年 一月 一日 発行

編集発行人 竹 田 喜美子

印刷所 勝 田 印刷

発行所 昭和女子大学

近代文化研究所

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂一ノ七

電話 03(三四一一)五三〇〇